

東京都市大学

環境プランニング研究室

佐藤チーム

「古民家でつなぐ世田谷のまち ～興じよう、古民家～」

参加メンバー（敬称略）	
チームリーダー：佐藤 瑞穂（3年）	
菅野 愛理（3年）	河野香奈恵（3年）
小林 琢真（3年）	小松 沙羅（3年）
牧 夏美（3年）	山口 拓朗（3年）
百瀬 雄太（3年）	
指導教員：坊垣 和明（都市生活学部 教授）	

古民家でつなぐ世田谷のまち ～興じよう、古民家～

世田谷を平安時代から現代までたどるツアーを提案



岡本公園民家園



次大夫堀公園民家園



UR 集合住宅歴史館

目指す街

世田谷には古民家がいくつも点在している。これらを UR 都市機構技術研究所集合住宅歴史館*と合わせることで繋がりが生まれ、歴史的な魅力を感じられるエリアにする。古民家には足を踏み入れた瞬間について「ただいま！」とってしまうような空気が流れている。ここ世田谷の街全体を訪れる人みんなの都会の故郷にしたい。日本の風情が残っているスポットとして都内には浅草があるが、こちらは商業が中心となっている。それに対し、世田谷では様々な時代の古民家や関連する施設を通して、昔の暮らしが体感できる新たなエリアを目指す。

* 八王子にあるUR都市機構技術研究所は近年中に閉鎖の予定である。ここにある集合住宅歴史館では、昭和30年代の「公団住宅」のほか、建築史的に価値の高い同潤会のアパートの住戸(1920年代)などを移築復元し、集合住宅技術の変遷をたどる展示公開を行っている。これを世田谷に移設して活用したいと考えた。

事業の目的

昔の建築の性能や暮らしの良さを古民家で体感することで知ってもらい、未来の子ども達までその良さを生かしたすまいや街作りを伝えていくこと。

また、2020年の東京オリンピック開催、グローバル化に伴い外国人観光客が今後ますます増加すると思われる。その際、世田谷区はオリンピック会場や、外国人が訪れるマストスポットである渋谷スクランブル交差点、センター街からのアクセスが良好であるため多くの外国人観光客が見込める。それらの人々に日本の生活文化を知ってもらえる良いスポットになることが期待され、それを実現するためのツアーを提案すること。

事業内容

現在、二子玉川には民家園が二つある。また近隣には五島美術館をはじめ、古民家など歴史的建造物が多くある。これらにUR都市機構の集合住宅歴史館を組み合わせたツアーを提案する。様々な時代の生活体験や生活文化の違い、世田谷のまちの移り変わり、歴史的背景をこのツアーを通じて学ぶことができる。また五島美術館には世田谷の歴史的美術品から平安時代の国宝まで多種多様な美術品があり、このツアーは1日で平安時代から現代までを美術品、建造物から目で見て肌で感じられるものとなっている。

古民家で



つなぐ



世田谷の
まち



東京都市大学都市生活学部
環境プランニング研究室



目次

現状

まちの形成と地形関係について

実例

同潤会アパート

提案

参考文献

現状

目指す街

未来の子供たちに昔の建築の性能や暮らしの良さを知ってもらうため、古民家が存続する街作りを継承すること。また、古民家を残すことで、省エネ効果や現在の建築の利便性に依存しすぎないような街を目指す。

事業の目的

五島美術館では世田谷の歴史的美術品も管理しており、展示品から奈良・平安時代からの歴史を感じることができる。次大夫公園民家園、岡本公園民家園では、江戸・明治時代の人々の暮らしを学ぶことができる。また、2020年の東京オリンピックが開催されるにあたり、海外からの観光客が日本に大勢来るだろう。日本の歴史を知り、都心に近い世田谷にも昔の暮らしを体感できる古民家があることをアピールしたいと考えた。そして、私たちは、世田谷にある古民家や、美術館、集合住宅歴史館を通して時代を目で見て肌で感じられると考える。外国人が訪れるマストスポットである渋谷スクランブル交差点、センター街からのアクセスの良さもあり、都心に近い場所で古き良き日本を感じてもらいたいと思う。

一方、八王子にあるUR都市機構技術研究所が閉鎖予定である。

ここの集合住宅歴史館では、昭和30年代の「公団住宅」のほか、建築史的に価値の高い1920年代の同潤会アパートの住戸などが移築復元され、集合住宅技術の変遷をたどる展示公開を行っている。これを世田谷に移設し、既存の民家や美術館と合わせて、建築の歴史を辿りながら街の発達の流れ、それに関わる生活や形態の変化を肌で感じながら学ぶことにより、歴史的建造物の大切さを感じることができる。さらには、古民家を体験することで、昔の暮らしの工夫を更に深く印象づけることができる。

都内で身近に古民家での暮らしや風景を実際に体感してもらい、古民家の良さを知ってもらう。また、2020年に東京オリンピックがあり、東京に来た外国人観光客が気軽に足を伸ばせる距離で日本の生活文化を知ってもらう。そのため、時代ごとに世田谷のまちがどのように変わっていったのか、立地によって違いはあるのか、様々な背景についても調べた。

私たちは、このような歴史的建造物や関連する施設、美術館を巡り、世田谷を平安時代から平成までたどるツアーを提案する。



まちの形成と地形の関係について

世田谷は土や砂、小さな石が流されてきて積み重なり、だんだんと陸地となる洪積台地上にある。

世田谷地域は、室町時代から吉良氏の領地であり、江戸と小田原を結ぶ交易の地として、大道沿いに開けた街並みが発展してきた。

江戸明治には、家康が関東に入国したことによって世田谷のほとんどの村が直轄領となり、喜多見村や深沢村を含む9つの村に給地を与えられた。

大正から昭和初期にかけて京王線・小田急線・大井町線・井の頭線が開通し、関東大震災が発生すると被害を受けた下町の人々は地価が安く交通の便のよい近郊へ移住し、世田谷も急激に人口が増え、電車の沿線は住宅地に変貌していった。郊外に避難した人々は、そのまま住み着いて地元民となった。

また、空襲による損失が比較的少なかったため、戦後から昭和40年代にかけて人口が急増している。

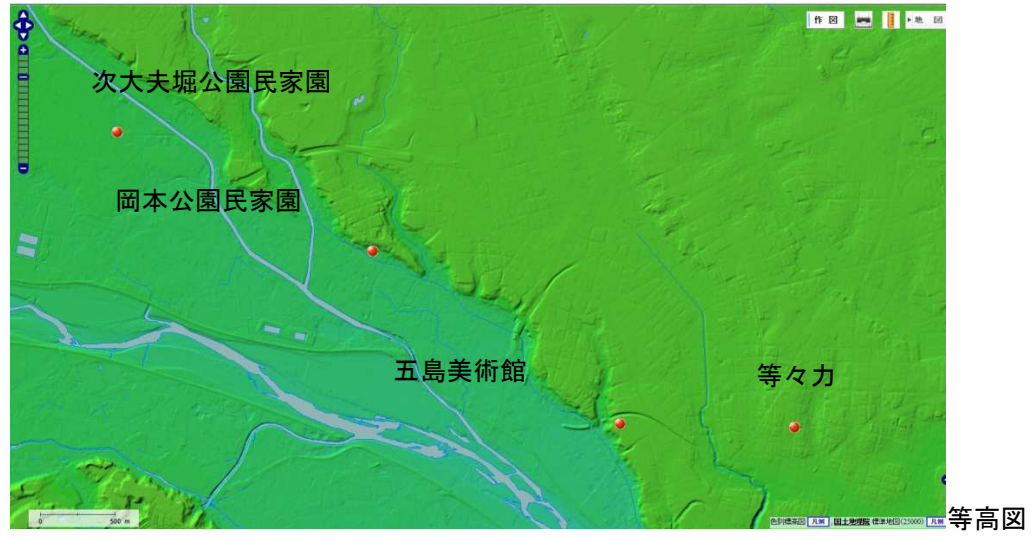
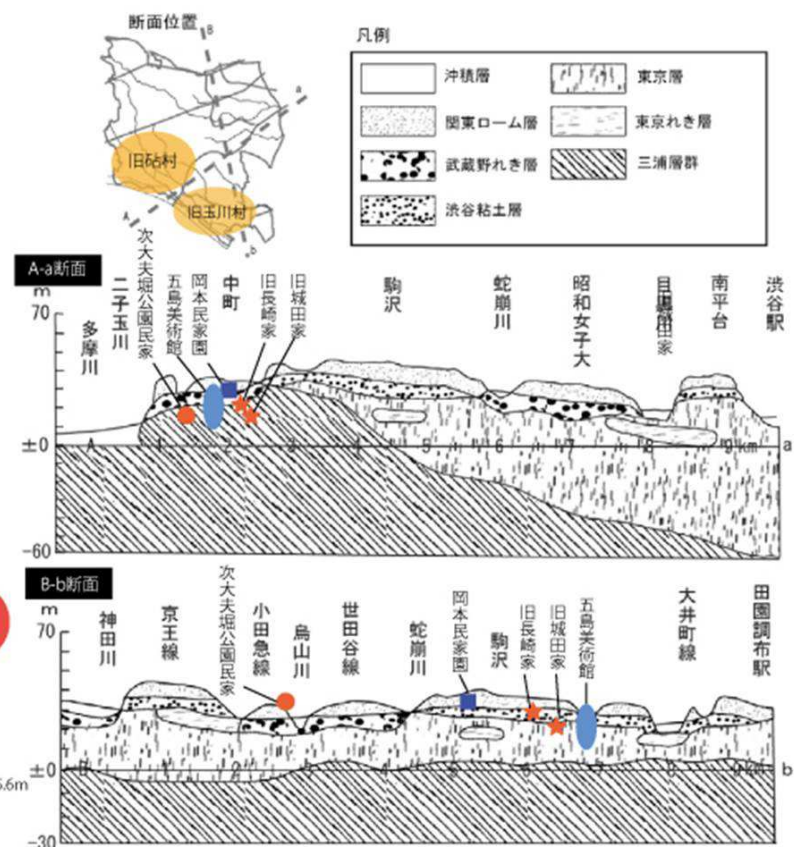
世田谷区の地形は台地と低地からなっている。多摩川に沿って成城付近から南東の喜多見や大蔵、瀬田、野毛に至るまでの急な崖の連なり(国分寺崖線)があり、これより南西側は低地(沖積層)、北東側は台地(洪積層)に区分されている。武蔵野台地である台地部は、中小多数の河川によって枝状に浸食されており、その結果、丘や谷の起伏がつくられた。世田谷区の特徴として、立川市から大田区まで約30km続いている高さ10~20m国分寺崖線という斜面がある。これは約10万年前から多摩川が武蔵野台地を削ってきた崖である。東京の基盤である上総層(不透水層)の上に砂利層、関東ローム層(透水層)が重なった武蔵野台地は、崖下の至るところに湧水口があり、野川の水源にもなっている。発展に伴い、岡本から上野毛の国分寺崖線沿いは、別荘や高級邸宅化し、緑の多い地域が維持された。

旧

- 岡本民家園 (旧長崎家) 35m
- 次大夫堀公園民家 (旧城田家) 26m
- 五島美術館 16~35.6m

現

- 岡本民家園 37m
- 次大夫堀公園民家 17m
- 五島美術館 16~35.6m



実例

① 世田谷区立岡本公園民家園

〒157-0076 東京都世田谷区岡本 2-19-1

アクセス 東急田園都市線二子玉川駅→小田急線成城学園前駅西口「世田谷総合高校」

下車徒歩 5分

東急田園都市線二子玉川駅→成育医療研究センター「民家園」下車徒歩 1分徒歩：東急田園都市線二子玉川駅より 20分

面積 面積約 30坪

標高 17.4m

移転前瀬田の標高 35m



旧長崎家住宅主屋

瀬田に残っていた江戸時代の農家を移築したもの。

かやぶきの大きな建物で、養蚕のための中二階があり、また作業場にもなる広い土間を持っている。



② 世田谷区立次大夫堀公園民家園

〒157-0067 東京都世田谷区喜多見 5-27-14

アクセス 小田急線成城学園前駅から徒歩15分

園内面積 2495.9坪 (8251.2㎡)

標高 17m



旧加藤家住宅主屋

区内喜多見の地に建っていたこの家は、江戸時代後期にみられる古典的な農民の間取り形式を持つ。また、家の内外には、養蚕を行うための造りが多くなっている。



旧城田家住宅主屋

区内喜多見の登戸道、筏道の主要な道が交わるところに建っていたこの家は、農業の外に、商いも営む半農半商の家だった。家の造りにも、町場で見られる店づくりの形式が、多く取り入れられている。



資料館

次大夫堀の歴史や、民家園の詳しい成り立ちが模型を使って説明していた。

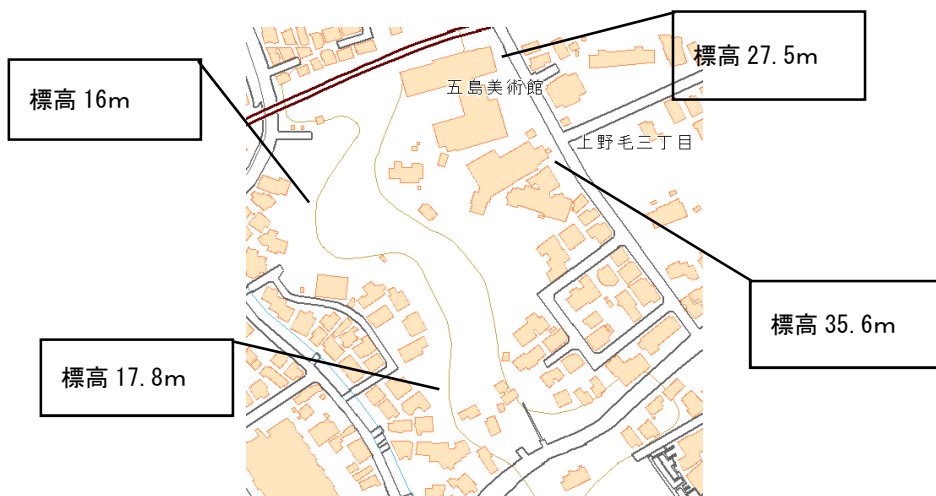
③ 五島美術館

〒158-8510 東京都世田谷区上野毛 3-9-25

アクセス 東急大井町線上野毛駅下車徒歩 5 分

面積 1,989m² 280 平米

標高



1960 年 4 月より開館。

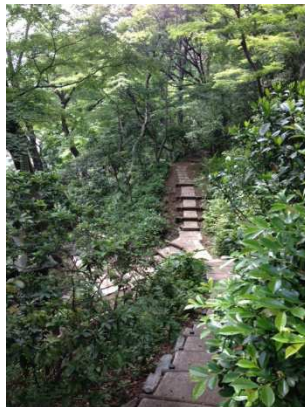
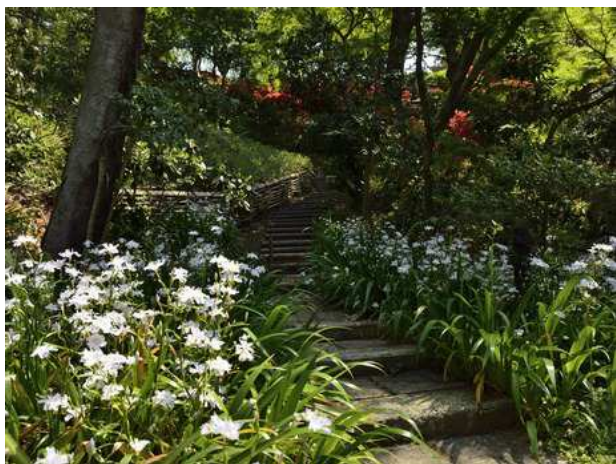
国宝 5 件重要文化財 50 件を含む約 5000 件の展示物がある奈良、平安、鎌倉、室町、桃山、江戸の特色を網羅している美術館。

等々力キャンパスに昔あった茶室も移設されている。

石仏や石塔、石灯籠などが配置されそこに茶屋が気づかれています。

この庭園は武蔵野台地の傾斜地、崖に作られていて、最大高低差は約 35m ある。

園の大部分は森、林で形成されている。



同潤会アパート

同潤会は大正13年に関東大震災の罹災者のための住宅供給を目的として創設された日本で最初の本格的な公的住宅供給機関である。その後を住宅営団に引き継ぐ昭和16年までのおよそ18年間、普通住宅、アパートメント、分譲住宅の住宅供給および住宅調査などの事業を行い、戦前期の住宅供給に大きな役割を果たした。

特徴としては、耐久性を高めるべく鉄筋コンクリート造で建設され当時としては先進的な設計や装備がなされていた。現在、アパートとして16か所あったもののすべてが解体されているが、一部表参道ヒルズに当時の材料のまま残されている。

同潤会は現在のUR都市機構が代官山アパートの部材を集合住宅歴史館に移設し室内が復元されている。

④ 集合住宅歴史館

独立法人都市再生機構技術研究所にあり、日本におけるRC集合住宅の歴史も80年を超え、この間に蓄積された技術を伝承し次の世代へ引き継いでいくことは重要である。日本での集合住宅に先導的役割を果たしてきた立場から、歴史的に価値の高い集合住宅を移築復元するとともに、集合住宅建築技術の歴史・変遷を展示公開している。代官山アパート、蓮根団地、多摩平団地、晴海高層アパートの内装一部、集合住宅部品の変遷、住宅設備の変遷モデルを展示している。



(参照：UR都市再生機構 <http://www.ur-net.go.jp/rd/history/>)

UR都市再生機構の技術研究所が閉館予定のため、大事な歴史的資料として保存したいと思い、古民家が点在する世田谷に移転する提案をしたい。

集合住宅歴史館では、昭和30年代の「公団住宅」のほか、建築史的に価値の高い同潤会アパートの住戸などを移築復元し、集合住宅技術の変遷をたどる展示公開を行っている。この歴史館を世田谷区の砧村公園に移転することにより、世田谷区の魅力を増やし、近代建築の学びの場を残せる有効な活用法ともなるだろう。

建築の歴史を辿りながら街の発達の流れ、それに関わる生活や形態の変化を肌で感じながら学ぶことにより、歴史的建造物の大切さを感じることができる。

⑤ 等々力の古民家

大学周辺にも多くの魅力的な古民家が残されている。下図はその一例である。



提案

バスツアーの提案

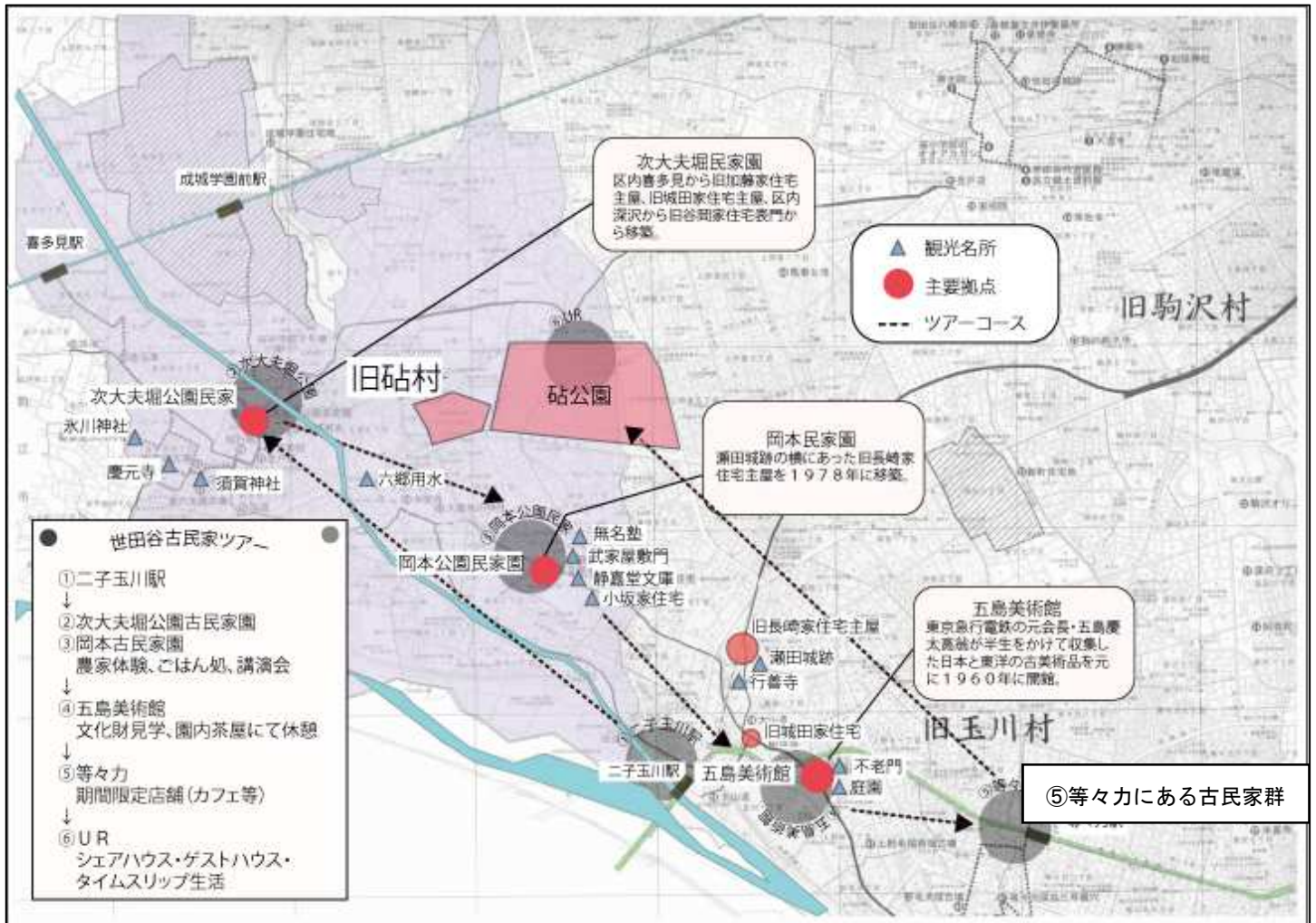
「古民家を巡るツアー～興じよう、古民家～」

世田谷にある代表的な大きな古民家を中心に巡るツアーを提案する。このツアーは時代を追いながら体感できる内容で大人から子供まで楽しめるよう、バスでゆっくりと観光できるプログラムにした。

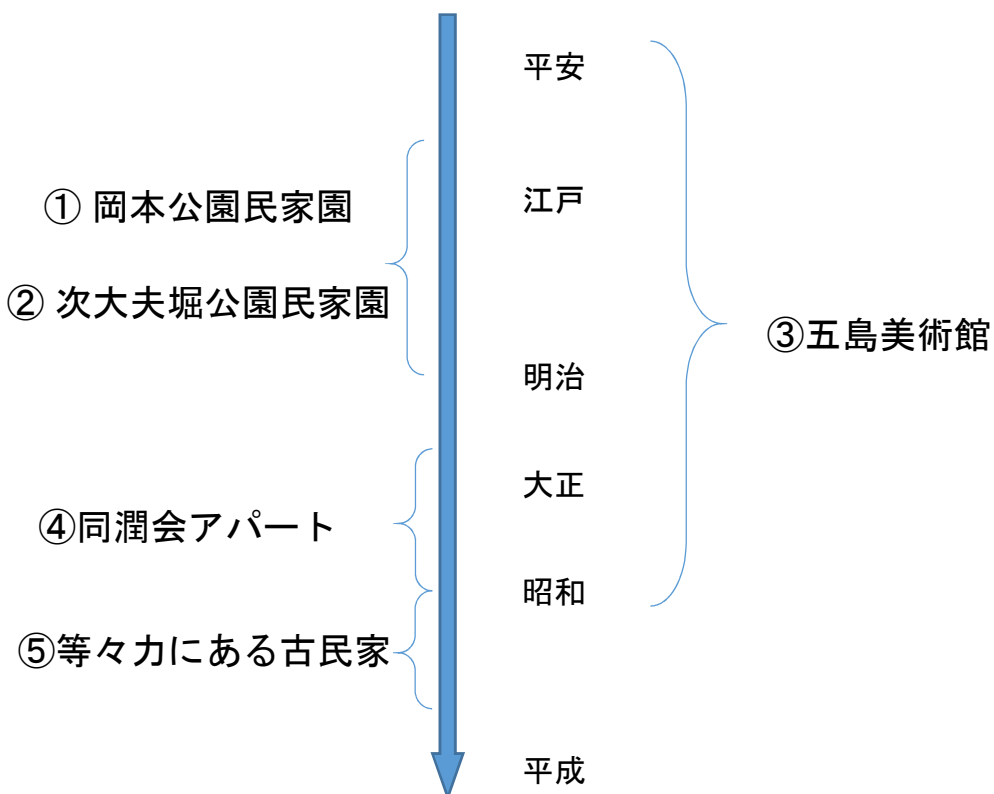
それぞれの民家園では農業体験、風情のあるたたずまいの中で昼食会をする。また、古民家どうしの移動時間がそれぞれ15分ほどある。その時間を活用して、少しでも世田谷古民家について知ってもらえるように学生が添乗員となって世田谷の歴史などを案内するバスガイドを務める。ツアーの締めくくりとなるURの移転先古民家では、展示しているワンルームをシェアハウス・ゲストハウスとして開き、タイムスリップ生活を体験して、ツアーを巡った人々や地域住民との交流の場を提供する。

タイムスケジュール

9時半集合 10時発 二子玉川駅 →バス移動→ 10時15分～13時30分 次大夫、岡本古民家園（農家体験1時間、ごはん処1時間、講演会1時間）→バス移動→ 14時～16時 五島美術館（文化財見学、園内茶屋にて休憩）→バス移動→ 16時10分～17時10分 等々力（期間限定店舗（カフェ等））→バス移動→ 17時20分 URの移転先古民家（シェアハウス・ゲストハウス・タイムスリップ生活）



時代背景



参考文献

○パンフレット・地図

ようこそ民家園へ

独立財団法人 都市再生機構 技術研究所 「集合住宅の源流を探る」

世田谷区歴史・文化財マップ

○Web

一般財団法人トラストまちづくり

<http://www.setagayatm.or.jp>

同潤会の独立木造分譲住宅事業に関する基礎的研究：遺構調査を中心に

<http://hdl.handle.net/10457/1041>

UR 都市再生機構

<http://www.ur-net.go.jp/rd/history/>

地理院地図

<portal.cyberjapan.jp/>